

香川のすがた

～香川の経済・産業・暮らしの今、そしてこれから～

2024年版



一般財団法人 百十四経済研究所

[2024年版]

香川のすがた

CONTENTS



1	四国の玄関口	2
2	観光と特産品	6
3	四国遍路	10



1	気 候	22
2	交 通	28
3	人 口	34
	調査REPORT 1 うどん県民の飲食行動	38



1	生産規模・構造	44
2	事 業 所	46
3	就 業 ・ 雇 用	48
4	買 易	52
5	物 価 ・ 地 価	54
6	家 計	58
	調査REPORT 2 老後生活に対する県民の意識	62



1	地場産業	68
2	農業・漁業	70
3	製造業	74
コラム	物流・運送業界の「2024年問題」とは？	79
4	運輸業	80
5	建設業	86
6	卸売・小売業	88
7	宿泊業	94
8	飲食業	96
9	医療業	98
10	介護業	102
	資料編	106

香川のすがた発刊にあたって

地域の皆さまには、当研究所の調査・研究事業にご理解・ご支援を賜り、誠にありがとうございます。このたび、香川における地域情報発信の一環として『香川のすがた』2024年版を発刊いたしました。2012年に創刊して以来6号目、前号2022年版から2年ぶりの発刊となります。

本書が初めて発刊された2012年当時の日本は、デフレ下で国内景気は後退局面にあり、日経平均株価は8,000円～9,000円台で低迷、為替相場は1ドル=80円前後の円高環境にありました。しかし同年末からのいわゆるアベノミクス開始、翌2013年4月からは日本銀行による大規模金融緩和が実施されたことで、国内景気は緩やかな回復局面に転じました。

そして本年、日経平均株価は一時40,000円を突破、為替相場も1ドル=160円を超える円安を記録しました。その経済環境下で日本銀行の金融緩和政策も転換されました。一方で、急激な円安に伴う物価高、少子高齢化に伴う人手不足問題など、将来に向けての課題が山積しています。

このような状況を踏まえ、1980年の設立時より地域のシンクタンクとして当研究所が蓄積してきた各種データや調査事業で培った知見などを活用し、香川がどのように変貌を遂げてきたのかについて、香川に馴染みのない方々にもご理解いただけますよう、平易・簡潔に一冊にまとめました。

本書では香川の経済・産業の現状を分析するとともに、地域文化を代表する讃岐うどんや世界文化遺産登録を目指している四国遍路など、県民生活や文化についても幅広く取り上げています。香川の多面的な魅力を知っていただき、多くの方々にその価値を感じていただければ幸いです。

最後に、『香川のすがた』が皆さまにとって香川の理解を深める一助となり、地域の魅力や課題に対する認識を深める契機となることを心より願っております。今後とも、皆さまのご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2024年6月

一般財団法人 百十四経済研究所
理事長 香川 亮平



第1章
香川県の
特色

1 四国の玄関口

2 観光と特産品

3 四国遍路

凡例：図表等の計数は、単位未満四捨五入等の関係で内訳と合計が一致しない場合がある。

1

四国の玄関口

- ・本州と瀬戸大橋で結ばれた四国の玄関口。人や物の移動の結節点。
- ・国際航空路線のある高松空港は、世界の人々が訪れる四国の玄関口。
- ・面積は全国で最も狭いが、可住地面積比率と人口密度が高い。

1. 四国の北東部に位置する

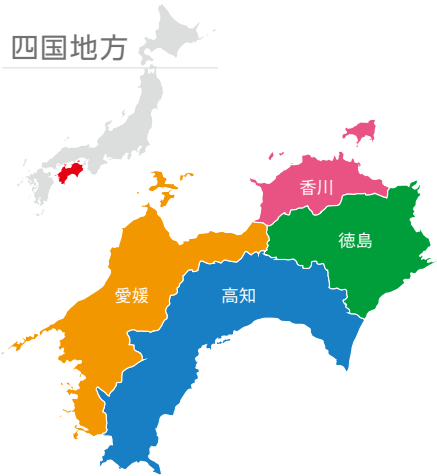
四国の面積は18,789km²。イタリアの観光地シチリア島は四国の約1.4倍、天空の鏡で有名なボリビアのウユニ塩湖は四国の約半分の大きさがあり、世界の中では四国は小さな島である。その中に徳島、高知、愛媛、香川の四県がある。

香川は、四国の北東部に位置しており、東西約92km、南北約61kmの東西に細長い地形である。その北部は瀬戸内海に面しており、海岸線は約724kmあり、24の有人島、92の無人島を有する。

香川の面積1,877km²*は、四国4県はもちろん47都道府県の中で最小である。

※資料：国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」

(特色-1) 四国・香川県の位置



四国地方

(特色-2) 香川県と瀬戸大橋・高松空港



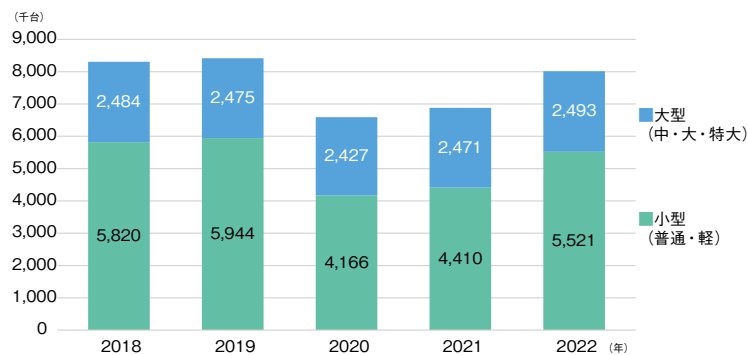
2. 瀬戸大橋で本州とつながっている

香川県坂出市と岡山県倉敷市児島をつなぐ海峡部9.4kmに架かる6橋を総称して瀬戸大橋と呼ぶ。高速道路と鉄道上下2層の併用橋では、世界最長である。現在3ルートある本州四国連絡橋の中では最も早く1988年に開通。



瀬戸大橋の交通量をみると、小型車はコロナ感染症拡大に伴う移動制限の影響を受けて2020～2021年度は減少したが、2022年度は550万台まで回復している。

(特色-3) 本四高速橋上交通量(大型・小型)

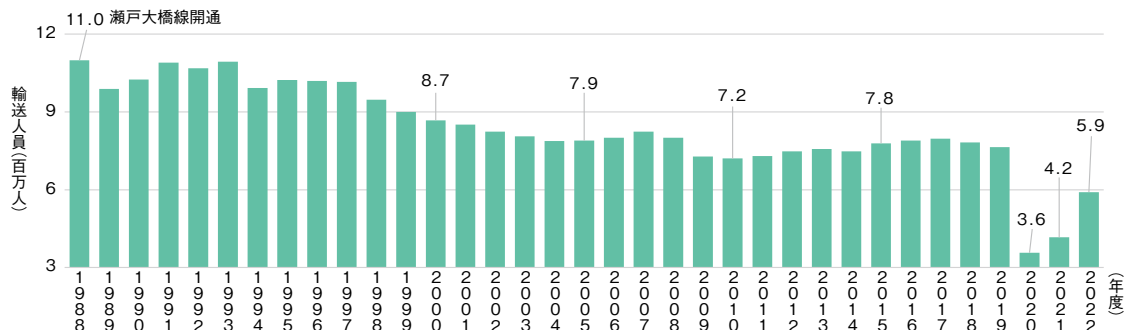


資料：本州四国連絡高速道路(株) 車種別交通量

おもに貨物輸送である大型車の交通量は240～250万台で安定しており、本州と四国を高速道路でつなぐ瀬戸大橋は、四国の物流に欠かせないものとなっている。

JR瀬戸大橋線については、JR高松駅からJR岡山駅までの移動には、開通前は連絡船と鉄道で約2時間かかっていたが、1988年の開通後は快速電車1時間で行き来できるようになった。JR瀬戸大橋線の輸送人員の推移をみると、2019年度までは700万人を超えていた。コロナ感染症拡大に伴う移動制限の影響を受けて2020～2021年度は半減したが、2022年度は590万人まで回復した。

(特色-4) JR瀬戸大橋線の輸送人員推移



資料：四国運輸局「四国地方における運輸の動き」

3. 航空路線で世界とつながっている

高松市にある高松空港は、1989年12月に滑走路2,500mのジェット化空港として移転開港し、2018年4月に民営化された。国内線は、羽田・成田・沖縄那覇の3路線、国際線は、ソウル・台北・香港・上海の4路線が就航している。

(特色-5) 高松空港 路線図



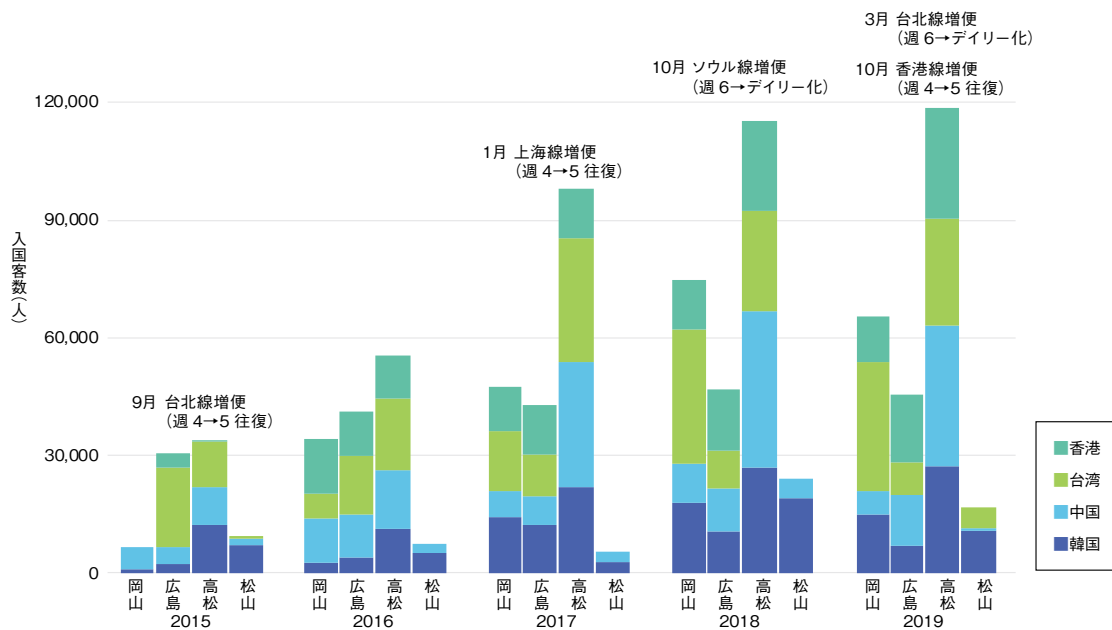
国際定期便の就航について、積極的に誘致活動を行った結果、2015年に台北線、ソウル線、香港線が増便された。その後も増便が続き、ピークとなる2019年には、ソウル線と台北線がデイリー化、香港線と上海線が週5往復となり、高松空港を利用する外国人観光客数の増加が著しかった。

しかし、コロナ感染症拡大に伴う行動制限や水際対策により、2020年2月の上海線運休に

始まり、すべての国際路線が運休となり、2020年4月以降の国際路線利用者数は0となった。

2022年11月にソウル線が運行再開し、2024年4月現在、ソウル線が週7往復、台北線・香港線は週5往復、上海線は週3往復で運行している。

(特色-6) 利用空港別外国人観光客流動量推移

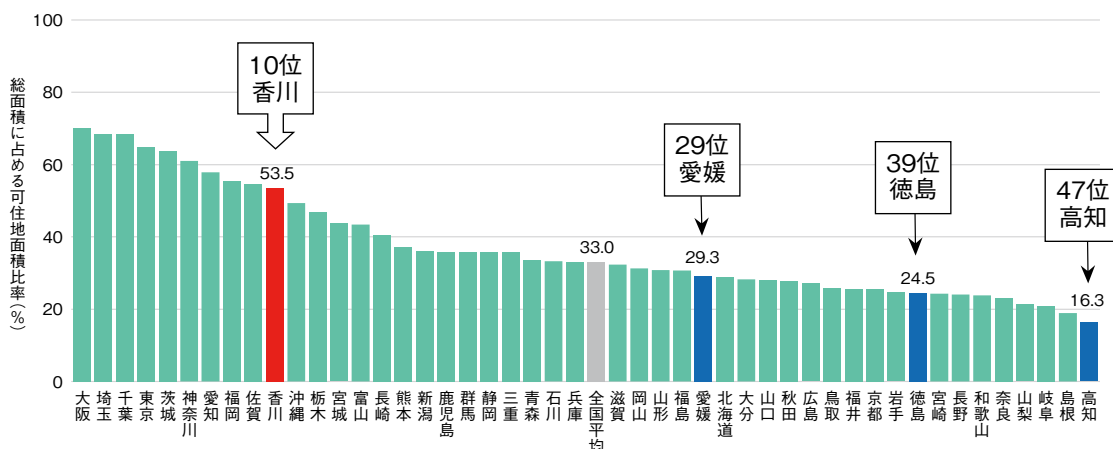


資料：国土交通省「FFデータ」

4. 人口密度が高く、土地の利用度も高い

香川県の総面積から林野面積および主要湖沼面積を除いた可住地面積比率は、総面積の半分以上を超える53.5%と47都道府県中10番目に高い。他の四国3県をみると、愛媛は29.3%（29位）、徳島は24.5%（39位）、高知は16.3%（47位）となっている。ちなみに、香川は標高1059.9mの竜王山が最も高い山で、山間地の標高は低く平野も広いため、県内宅地面積や田面積の県総面積比率が高く、土地の利用度が高いことも特徴の一つである。

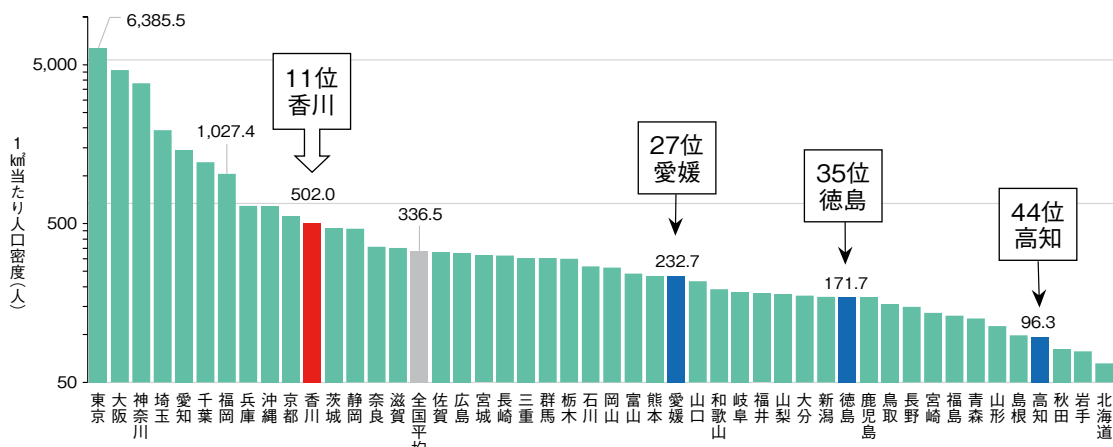
(特色-7) 都道府県別総面積に占める可住地面積比率(2021年10月1日時点)



資料：香川県統計調査課「100の指標からみた香川（令和5年版）」

香川の人口密度は502.0人と、47都道府県中11番目に高い。四国では愛媛232.7人（27位）、徳島171.7人（35位）、高知96.3人（44位）となっており、香川が抜きん出て高い。これは県面積が狭いにも関わらず、平野部が多く可住地面積比率が高いことに加え、土地の利用度も高いことが人口の集積につながっていると考えられる。

(特色-8) 都道府県別人口密度(2021年10月1日時点)



資料：香川県統計調査課「100の指標からみた香川（令和5年版）」